



令和 6 年度 ふるさと教育推進事業

浜田市内小学校・中学校

ふるさと教育取組事例集

小学校 15 校

中学校 8 校



浜田市教育委員会 学校教育課

ふるさと教育 取組事例（小学校）

学校	学年	教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
原井小	1	生活	むかしあそびをたのしもう	地域の方	1
松原小	2	生活	とびだせ！町のたんけんたい	地域のひと、地域の店	2
石見小	3	総合	発見！浜田の魅力！	亀谷窯業、石州瓦工業組合、石州和紙会館、石正美術館、後野社中、石見まちづくりセンター	3
美川小	6	総合	ふるさとの歴史と良さを探ろう	地域ボランティア	4
周布小	3	総合	発見！ 浜田のじまん	地域講師	5
長浜小	4	総合	地元浜田の海を守るために	地域ボランティア	6
国府小	1	生活	むかしからのあそびをたのしもう	地域の方、 国府まちづくりセンター	7
三階小	4	社会	残したいもの 伝えたいもの	島根県立浜田養護学校神楽部、 柿田面工房、 石州和紙会館	8
雲城小	2	生活	もっと知りたい たんけんたい	校区内のお店や施設 (村じまん屋甚左衛門、トルティーノ、プチマタン、きんたの里)	9
今福小	全校	生活 総合	今福のすてきな田んぼ	今福、美又、久佐まちづくりセンター、地域の方	10
波佐小	全校	体育	表現運動「よさこい」	学校に伝わる「よさこい」踊り、 地域の方、波佐小先輩方、 地域のイベント	11
旭小		総合	旭の梨のひみつを探ろう	木田まちづくりセンター、 地域の方、梨園、お店、お菓子、 梨のフォークダンス	12
弥栄小	1・2	生活	もっと秋をさがしにいこう	まちづくりセンタースタッフ、 地域の自然、野外散策	13
三隅小	1	生活	春・夏・秋見つけ	井野まちづくりセンター、 野山嶽自然観察員	14
岡見小	5・6	総合	岡見の歴史を調べよう	岡見まちづくりセンター 地域のボランティア	15

※ 総合：総合的な学習の時間

ふるさと教育 取組事例（中学校）

学校	学年	教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
第一中	3	総合	ジョブカフェ	中校区地域コーディネーター、 地域の事業所の方々（10 業種）、 ICT 支援員	16
第二中	1	総合	「みんなが住みたい・来てみたい街 浜田」を考えよう！	地域の方、市役所の方	17
第三中	1	総合	ふるさと学習	まちづくりセンター、 地域防災士、 石西防災研究所相談員	18
浜田東中	2	総合	修学旅行	三浦龍司、和田毅、佐々木大樹、 浜田市HP、石見畳ヶ浦 など	19
金城中	3	総合	伝統文化の継承	甚左衛門太鼓保存会	20
旭中	1	総合	旭町の再発見ツアー 旭町を盛り上げる提案をしよう	各地域まちづくりセンター 地域の生産者 旭支所教育委員会旭分室	21
弥栄中	1	総合	弥栄の未来を考える	杵束まちづくりセンター、安城まち づくりセンター、産業自治課、防災 士、被災された方	22
三隅中	3	総合	ふるさと学習	松永牧場、県立大学、リハビリテー ションカレッジ、石州和紙会館、吉 原木工所、浜田市農林振興課、伝統 工芸品産業振興協会	23

※ 総合：総合的な学習の時間

学校名	浜田市立原井小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	生活科	むかしあそびをたのしもう	地域の方
ねらい		地域の方と昔遊びを楽しむ活動を通して、昔遊びの面白さに気付くとともに、遊びを工夫したり、地域の方とのふれあいを楽しんだりして、自分の生活を楽しくすることができるようになる。	

1 取組の概要

地域の方と一緒に、児童にとって日頃なじみの少ない昔遊びを行った。今回は、けん玉、こま、あやとり、お手玉、めんこ、竹とんぼの6つの遊びを準備した。当日は児童を6つのグループに分け、地域の方には各グループに入ってもらい、各昔遊びのコーナーと一緒に回っていただいた。グループに地域の方が固定で入り、6種類の昔遊びと一緒に体験しながら、互いに交流を深めることができた。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域には、自分たちにいろいろなことを教えてくださる方がおられることが分かり、地域に愛着をもつとともに、地域の方と楽しく昔遊びをすることで、いろいろな人とコミュニケーションを図る力を高めたいと考えた。

(学力育成の視点から)

初めて出会う昔遊びに対して、試行錯誤しながら遊び方を考えたり、どうやったら上手くできるようになるのか地域の方にコツを教えてもらったり、遊び方のお手本を見せてもらったりすることで、昔遊びの楽しさや面白さに気づき、できるようになった自分の成長を感じることができた。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域の方に昔遊びを教えてもらいながら、子ども達も地域の方も一緒に楽しむ姿が見られた。また、「ふるさと先生（地域の方）に教えてもらって、こまが回せるようになって嬉しかった」「またふるさと先生に会いたい」等、地域の方に教えてもらうことの嬉しさに気づく姿が見られた。活動後、「お礼の手紙を書きたいです。」と児童から声が上がり、感謝の気持ちや楽しかった気持ちを書き表した。

(学力育成の視点から)

けん玉やこまなどは、すぐに上達するわけではなく、こつこつと根気強く練習をする必要がある。集中が続きにくい児童もいるが、地域の方と一緒にであったことで、あたたかく見守っていただきながら、あきらめずに活動を楽しむことができた。この取組の後、児童だけでもう一度昔遊びを体験する時間を設けたところ、「前回よりももっと上手になりたい」という思いをもって、粘り強く取り組む姿が見られた。

4 課題や今後の展望

地域の方に教えてもらったことを活かして、昔遊びの練習を楽しく続けながら、校内で昔遊び発表会をしたい。



(あやとり)



(けん玉)



(こま)

学校名	浜田市立松原小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活科	とびだせ！町のたんけんたい	地域のひと、地域の店
ねらい		町で生活したり働いたりしている人々との関わりを深める活動を通して、町のよさや町の人々の温かさに気づき、町の人々への親しみや愛着をもつ。	

1 取組の概要

- ・地域の商店街の店を訪問し、働いている人にインタビューして答えていただく。
- ・インタビューしたことなどについて、ポスターにまとめる。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の商店街の店で働く人へのインタビューなどを通して、親しみを深める。
- ・地域の商店街の店の仕事を見学することを通して、地域のお店のよさを再認識する。
- ・訪問した店に貼ってもらえるように、まとめをポスターのようにして届け、地域貢献意欲を高める。

(学力育成の視点から)

- ・身近な地域の店、働く人との関わりを通して、町のよさに気付いたり、地域の方への親しみをもったりすることができる。

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の商店街の店の見学や働く人にインタビューをすることで、地域のお店のよさを再認識したり、働く人への親しみを深めたりすることができた。
- ・貼ってあったポスターを見た児童は、お店の人に喜んでもらえた話し、貢献意欲を高めることができた。

(学力育成の視点から)

- ・身近な地域の店に品物を買いに行ったり、親しみをもって、挨拶をしたりすることができるようになった。



4 課題や今後の展望

- ・訪問を受け入れてくださるお店の減少や、児童の訪問時間帯と店の営業時間の調整が難しい。
- ・地域の商店街の店の活性化、児童が働いている人の温かさに触れ、親しみをもつことができる「町たんけん」の学習を継続していく。

学校名	浜田市立石見小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3年	総合的な学習 の時間	発見！浜田の魅力！	亀谷窯業、石州瓦工業組合、石州和紙会館、石正美術館、後野社中、石見まちづくりセンター
ねらい		浜田市の様々な魅力について調べたり、実際に体験したりする活動を通して、自分たちの住む地域の良さを知り、愛着や誇りをもてるようにする。	

1 取組の概要

- 浜田市の施設や行事などについて調べ、浜田市の魅力に迫る。
- 体験を通して、実際に働いている方の思いに迫る。
- 学んだことや気づいたことなどをポスターにまとめる。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ふるさとへの愛着や誇りをもてるように、児童にとって身近な校区内の亀谷窯業を活用した。
- 地域への貢献意欲が芽生えるように、児童が作成した石州瓦ポスターを石州瓦工業組合主催のイベントに展示してもらった。

(学力育成の視点から)

- 社会科「工場の仕事」の単元構成の中に「ふるさと教育」として鬼瓦体験や瓦施工体験を明確に位置付けることで、より深い学びへとつなげることができた。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- 地域の良さや働いている人の思いなどに気付けるようになった。
- 地域の課題解決に貢献しようとする態度が身についた。

(学力育成の視点から)

- 亀谷窯業や石州和紙会館、石正美術館など様々な施設を調べたり、実際に体験したりする中で生まれた学びをつなげて考える力が身についた。



4 課題や今後の展望

- ふるさと教育に関する視点（愛着や誇り、貢献意欲など）を明確にして、児童のよりよい学びにつなげていきたい。



学校名	浜田市立美川小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習 の時間	ふるさとの歴史と良さを探ろう	地域ボランティア
ねらい		美川地区に残る歴史的な建造物や施設等を地域の方と巡ったり、戦時中の生活の様子やその時の思い、美川地区の様子についての体験談を聞いたりする活動を通して、ふるさとへの愛着を深めることができる。	

1 取組の概要

美川地区に残る歴史的な建造物や施設等を地域の方と巡り、美川地区の歴史や古くから残る建造物等について、地域ボランティアの方から説明を受けた。

また、社会科の歴史の学習と関連させ、別日に地域ボランティアの方を小学校に招き、戦時中の生活の様子やその時の思い、美川地区の様子についての体験談を話していただいた。

上記の2つの活動について、グループに分かれて模造紙にまとめ、掲示することで全校に発信した。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

美川地区の歴史的な建造物や施設、その場所に関わる歴史的事象を知ったり、地域ボランティアの方のふるさとに対する思いを感じたりすることで、ふるさとに対する愛着を深める。

(学力育成の視点から)

思考力や表現力を高めるために、話された内容をノートに記録した。また、記録したこととお話を聞いて自身が感じたことを文章にまとめた。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域ボランティアの方と美川地区に残る歴史的な建造物や施設等を地域の方と巡り、美川地区の歴史や古くから残る建造物等について説明を受けたことで、ふるさとの歴史について詳しくなったり、美川地区の歴史を引き継ぎ、建造物や施設を大切にしたりしたいという気持ちが高まった。

(学力育成の視点から)

模造紙にまとめる際、地域の方の思いや自分の感じたこと等を文章に入れる等、文章表現を工夫する力が高まった。



4 課題や今後の展望

年間指導計画に位置付け、社会科の歴史の学習との関連を図り、より児童にとって実りのある活動にしていきたい。

学校名	浜田市立周布小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	発見！浜田のじまん！	地域講師
ねらい		昔から伝わる地域の祭りや神楽の話聞くことを通して、郷土の伝統行事や伝統芸能にふれ、神楽を調べていくきっかけにする。	

1 取組の概要

- 浜田の自慢できるものについて話し合う。
- 「石見神楽」について、知っていることや調べてみたいことを話し合う。
- 地域講師を招き、石見神楽についての話を聞いたり、体験活動をしたりする。
【西村神楽社中】
- 学習したことを新聞にまとめる。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ふるさとの伝統文化の良さをより実感できるよう、実際の衣装や道具等を使った体験活動を計画し、「本物に触れる」場面を設けた。

(学力育成の視点から)

- 児童の学習意欲を高めたり、石見神楽に対する理解をより深めたりするために質疑応答の時間を設けた。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- 石見神楽という身近な素材ではあるものの、児童にとっては学習を通して初めて知ることでも多かった。児童の成果物からは、そうした新たな発見に対する感動も読み取ることができ、改めて石見神楽の魅力を再認識することにつながった。

(学力育成の視点から)

- 話を聞いて学んだことや体験を通して知ったこと、また書籍で調べたことなど、伝えたい内容に合わせて必要な情報を取捨選択しながら新聞にまとめていた。

4 課題や今後の展望

- 今年度の取り組みをもとに、地域の教育資源である（ひと・もの・こと）をもっと効果的に活用する方法を考え、よりよい児童の学びにつながるようにしていく必要がある。

学校名	浜田市立長浜小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な学習 の時間	地元浜田の海を守るために	ひと
ねらい		海岸の清掃活動をしている人の取り組みや思いを知って環境を大切にしようと思う気持ちを高める。	
1 取組の概要 ・熱田海岸の清掃活動をボランティアの方と一緒にする。 ・島根県環境生活部廃棄物対策課の方のお話を聞く。  2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ・わたしたちの住む長浜には、海岸をきれいにしようとして自主的に清掃されている人がいることを知り、環境を大切にしているという態度を育てる。 ・同じ地区に住む人との交流を深め、その町の一員であるという自覚がもてるようにする。 (学力育成の視点から) ・海洋汚染がどのように起きているのかを考える。 ・海洋ごみを減らすためにどうしたらいいのか考える。  3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ・地域の方とのコミュニケーションをとることで、地域の人を知ることができた。 ・次に海岸に来る時は率先してゴミを拾ったり捨てないようにしたりしようとする意欲がもてた。 ・生活の中で出てくるごみを減らし、海を守っていきたいという思いをもった。 (学力育成の視点から) ・人の行動が自然環境に及ぼす影響について学び、普段の生活に生かそうとする態度を養えた。 ・自然環境を守るために、発信したり、周囲の人に働きかけたりすることの大切さを実感した。  4 課題や今後の展望 ・今年度と同様に人材を確保するために、まちづくりセンターと学校との間の事前打ち合わせを年度初めにしておく。 ・各関係機関との連携や出前講座の活用、周囲の人を巻き込んだ発信活動を行い、児童にとって実感を伴った学習を行っていく。			

学校名	浜田市立国府小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	生活科	むかしからのあそびをたのしもう	地域の方、国府まちづくりセンター
ねらい		伝承遊びに触れ、工夫して遊んだり技に挑戦したりすることを通して昔から伝わる楽しさに気づくことができる。	

1 取組の概要

地域の方と一緒に昔遊びをする活動を通して、地域の方とふれあい、昔遊びを楽しむ計画をした。こま、手回しゴマ、ヨーヨーの3つの遊びを用意した。これらの昔遊びの道具に色を塗ることで、自分だけの道具として愛着をもって、活動に取り組むことができた。また、それぞれのグループに地域の方に入ってもらい、交流を深めた。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域の方との昔遊びを通して、自分たちの周りには色々なことを教えてくれたり遊んでくれたりする地域の方がいることが分かり、地域に愛着をもてるようにする。

(学力育成の視点から)

自分の気持ちを表現する場として、振り返りの時間を設け、地域の方の前で自分の思いや感じたことを伝える場を設定した。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域の方に昔遊びを教えてもらう中で、もっといろいろな遊びを教えてほしいという思いをもつ児童の姿が見られた。こま、手回しゴマ、ヨーヨー以外にも、けん玉やかると、おはじきも用意しており、「こまのひもを巻くことができなかったけど、地域の方に教えてもらってできるようになったよ。」等、地域の方に教えてもらうことの楽しさに気づく姿が見られた。

(学力育成の視点から)

昔遊びを通して知ったことや新たに知った遊びについて図書館で調べる時間を設けた。

4 今後の展望

地域の方に教えてもらったことを生かしながら昔遊びの練習を続けて、いろいろな昔遊びができるようにしたい。



こま



手回しゴマ



ヨーヨー

学校名	浜田市立三階小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	社会科	残したいもの 伝えたいもの	島根県立浜田養護学校神楽部 柿田面工房 石州和紙会館
ねらい		石見地方の伝統芸能である石見神楽について理解を深め、なぜ今まで継承されてきたのかを知り、これから先も受け継いでいくために今、自分たちができることは何か考える。	

1 取組の概要

- ・島根県立浜田養護学校神楽部の皆さんに来ていただき、石見神楽について関心を高める。
- ・石見神楽についてパンフレットや本、インターネットで調べたことをまとめる。
- ・石見神楽が直面している課題に気付き、これから先、石見神楽を受け継いでいくために自分たちができることを考える。
- ・蛇胴や面に使われている石州和紙の紙すき体験をする。
- ・今自分たちにできることを実践する。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・浜田養護学校神楽部の生徒に来ていただき、神楽を鑑賞、体験させてもらうことで、石見神楽への関心を高めるとともに、様々な年代の人から愛されていることに気付かせたいと考えた。
- ・石州和紙会館で紙すき体験を行うことで、石見神楽はそれぞれの社中だけではなく多くの人によって支えられていることを知ってもらうとともに、関連する伝統工芸品への理解を高めたいと考えた。

(学力育成の視点から)

- ・情報活用能力を高めるために、石見神楽について、パンフレットや本、インターネットなどから調べ学習を行った。
- ・石見神楽に携わっている柿田面工房へインタビューした資料を提示すること で石見神楽の素晴らしい面だけではなく、課題もあることや切実な願いがあることに気付かせたいと考えた。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・石見神楽は島根が誇る伝統芸能であるという誇りをもつ姿がみられた。また石見神楽がこれからも続いてほしいという願いをもつとともに、他の県の人や海外の人にも知ってもらいたいという思いをもつことができた。

(学力育成の視点から)

- ・人々の願いや思いによって伝統を守が守られ、受け継いでいかれるということを学んだ。
- ・石見神楽がこれから先も続いていくために自分たちができることとして、石見神楽の魅力を発信するためのポスターや動画を作成した。



↑自分たちができることとして作成した、魅力発信のための、ポスター・CM・4コマブック

4 課題や今後の展望

- ・魅力発信のためのポスターや動画の発表が校内だけで終わったので、校外にも発信できると、児童の達成感がより高まるのではないかと思います。

学校名	浜田市立雲城小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活科	もっと知りたい たんけんたい	校区内のお店や施設（村じまん屋甚左衛門、トルティーノ、プチマタン、きんたの里）
ねらい		町で生活したり働いたりしている人々との関わりを深める活動を通して、町の良さや町の人々の温かさに気づき、町の人々への親しみや愛着をもつ。	
1 取組の概要 本単元は、1学期に行った「とび出せ！町のたんけんたい」の学習を踏まえて、さらに地域のことを深く学ぶ単元である。今年度は、校区内の4つのお店や施設を訪問し、従業員の方へのインタビューと店内の見学を行った。分かったことはクイズにして、学習発表会で発表をした。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 1回目の町たんけんの前に、子どもたちがもつ地域のイメージや知っていることを共有した際、意外と自分の地域のことに気づいていないことが分かった。そこで、本単元で地域の「ひと・もの・こと」に出会うことを通して、自分の地域に目を向けるきっかけとなり、この地域で育ってよかった、地域を大切にしたい、地域のために何かできることをしてみたいといった、ふるさとへの愛着心をもつ人に育ってほしいと考えた。 (学力育成の視点から) 実際に外に出て、いろいろな方の思いを聞くことや現物を見ることは、教師の話からだけでは学ぶことができないものがある。主体的な学びとしていくため、1回目の町たんけんを通して感じた「なぜ?」、「もっと知りたい!」という思いを問いとして、お店や施設の方にインタビューをした。同時に、国語の「話す・聞く」の単元とも絡めながら、相手に応じた話し方等も学習できるようにした。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 見学後、「家族ときんたの里の温泉に入りに行ったよ」「今度は家の人と買い物に行ってみよう」「プチマタンのクロワッサンをまた食べたい」など、子どもたちから聞かれるようになった。「見学したことをだれに伝えたいですか」と問いかけたところ、保護者や友達だけでなく「地域の人」という回答もあり、地域を意識する子どもが増えたことを感じた。 (学力育成の視点から) 見学したことをクイズにすることを通して、収集した情報を活用する力や、相手意識をもって文を考えたり表現したりする力、グループでの話し合いによるコミュニケーション能力が身についた。			
4 課題や今後の展望 今回は全員で同じ場所を訪問したため、ゆっくり見学や質問をすることができなかった。集中して見学できるよう、少人数グループでの見学を検討したい。併せて、まちづくりセンターに見守りボランティアの確保を依頼し、複数のグループで回れるようにしたい。また、子どもたちから出た「地域の人にも伝えたい」という思いを実現できるよう努めていきたい。			





学校名	浜田市今福小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	生活科 総合的な学習	今福のすてきな田んぼ	今福・美又・久佐まちづくりセンター、地域の方
ねらい		田植えからもちつき会までの活動を通して、季節の移り変わりを感じたり、地域の自然や人に親しみをもち、そのよさに気づいたり、進んで関わろうとしたりする。	

1 取組の概要

- ・もち米づくり（田植え・稲刈り・脱穀）を行い、地域の方から作業の仕方や道具の使い方などを教わる。
- ・稲の生長を観察する。
- ・収穫を祝い、地域の方と一緒にもちつきをする中で、これまでお世話になった地域の方との親睦を深め、感謝の気持ちを伝える。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・もち米づくりを通して、ふるさとの自然に触れたり地域の方から学んだりする楽しさを味わうことができるように、まちセンや地域講師と事前に打ち合わせを行い、この活動で子どもたちに身につけさせたい力やめざす子ども像について共有した。

（学力育成の視点から）

- ・振り返りの時間として、地域の方々の前で自分の思いや感じたことを伝えたり、お礼の手紙を書いたりする時間を設けた。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・もち米づくりを通して、稲の生長や季節の変化、自然のすばらしさなどに気づくことができた。・地域の方と活動する楽しさを実感し、日頃から関わり見守ってもらっていることに改めて気付くことができた。

（学力育成の視点から）

- ・体験した様子を作文や絵で表現したり、感謝の気持ちを手紙に書いたりした。

4 課題や今後の展望

- ・児童数の減少により、地域の方の協力は不可欠である。今後も3つのまちづくりセンターと連携して取り組みたい。
- ・長い間受け継がれてきた活動なので、児童がより主体的に地域の人や自然とかかわることができるよう、年間の活動内容やねらいを明確にして継続していきたい。



学校名	浜田市立波佐小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	体育 学校行事	表現運動「よさこい」	学校に伝わる「よさこい」踊り 地域の方、波佐小先輩方 地域のイベント
ねらい		先輩から引き継がれた「よさこい」を地域合同の運動会で披露することにより、「波佐愛」を育むとともに、地域とのつながりを深める。	

1 取組の概要

本校では、ふるさと教育の一環として「よさこい」（踊り）を地域と合同の運動会や地域の夏祭りで披露している。上級生が下級生に踊りを教え、全校で一体となって取り組んでいる。夏祭りでは、地域を盛り上げる役割を果たし、運動会では、卒業生や遠方から帰省した先輩方も加わり、一緒に踊ることで、世代を超えた交流がうまれている。この取り組みを通じて、郷土愛の醸成、地域とのつながりの強化、主体的に学ぶ姿勢の育成などふるさと教育の成果が表れている。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・波佐愛（先輩へのあこがれと、後輩へのいたわり、そして波佐への愛）を育むため、地域の運動会だけでなく、地域の祭りでも披露し、実践的な学びの場を設定。

(学力育成の視点から)

- ・児童の学習意欲を高め、主体性を育むため、先輩から受けついで「よさこい」を教え合う場を設定。



【上級生から下級生へ伝授】

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の活動に積極的に参加したり、地域の方との交流を楽しんだりする姿が見られた。学校評価においても、「ふるさとを大切にする気持ちをもつことができた」という項目においては全校児童が良い評価をしていた。

(学力育成の視点から)

- ・主体的に取り組んだ「よさこい」で、地域の方に喜ばれたり、先輩と一緒に踊ったりしたことで、達成感を感じ、自信をもつことにつながった。児童にとって主体的に学習に取り組むことの良さを感じ、他の場面でもいかされている。



【地域のイベントで披露】

4 課題や今後の展望

- ・地域のイベントとつなげ、実践的な学びの場を増やしたり、運動会での披露を工夫するなどし、児童の主体的な学びにつなげる。



【先輩と共に踊る運動会】

学校名	浜田市立旭小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
	総合的な学習 の時間	旭の梨のひみつを探ろう	・木田まちづくりセンター ・地域の方、梨園、お店、お菓子 ・梨のフォークダンス
ねらい		梨の栽培や販売についての話を聞いたり、作業体験をしたりすることを通して、疑問をもったり調べたいことを見つけたりすることができる。また、旭町の梨について知ることや、梨に携わる方の苦労や思いに触れることを通して、自分たちの住む旭町に関心や愛着をもつ。	

1 取組の概要

梨をテーマにした年間学習活動。4月に栽培・摘果体験、5～7月は調査活動、9月に収穫体験と選果場見学、11月に規格外梨の和菓子学習、1月に梨のフォークダンスを学び1年生へ指導、最後に成果発表を行った。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・普段の学校生活ではなかなか体験することのできない栽培体験や関係施設の見学を設定し、実際の経験を通して、「協働することの大切さ」「生命を育てることの難しさや喜び」「働くことの大変さや喜び」を実感できるようにした。

(学力育成の視点から)

- ・課題発見の力をつけるために、梨について学習する中で「知りたいこと」「体験や見学でわかったこと」「自分たちで調べたこと」を、その都度タブレットに記録・共有することで、子どもたちが自ら課題を見つけることができるようにした。
- ・課題解決をする力をつけるために、こちらが課題や解決方法を用意するのではなく、子どもの疑問や気付きから次の探究課題を見出すようにした。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・収穫体験や選果場見学をしたことをきっかけに、「この前行ったお店に梨が売られていたよ」「お店で〇円だった」「うち、親戚に旭の梨送るんだって」「食べ比べしたら田村さんが言っていたように梨の外側や下側が甘かった」と、自分たちの生活と学びを結び付けている発言が増えた。今まで何となく食べていた旭の梨について日常的な興味が高まった。
- ・梨栽培や販売の仕事に携わる方の思いを直接聞いたり一緒に作業をしたりしたことで、地域の方の努力や思いに触れることができ、「自分たちも梨に関することをやってみたい」という思いが高まった。「規格外の梨の活用アイデア」「旭の梨をもっと有名にするためのアイデア」を進んで考え、成果発表で発表したことで、地域貢献の意欲が芽生えた。

(学力育成の視点から)

- ・「収穫した梨はどこにいくのか？」という疑問を解決するために選果場見学へ、「梨園や選果場で『外』となった梨はどうなるのか？」という疑問を解決するために松風堂見学へ、というように、疑問から課題を設定し、課題解決のために地域の「ひと・もの・こと」を使うという探究のサイクルで学習を進めた。タブレットで疑問や気付きを整理したことで、課題発見や解決方法を考えることを意欲的に行う様子が見られた。

4 課題や今後の展望

- ・タブレットで学んだことを全員での共同作業でまとめていくことは、整理するためには有効だった。しかし、子どもたちそれぞれが、経験したことや学んだことに対する思いや感想を表出することも大切だと思う。学んだことだけでなく、経験や学びに対する自分の思いを記録に残していくことが、ふるさとへの愛着や貢献意識に繋がっていくと思うので、どちらもバランスよく取り入れていくようにしたい。
- ・中学年なので「やってみたい」と思ったことからアイデアを膨らませるところで学習は終わったが、この経験を土台にして、高学年、中学生での学習で、地域貢献や自分たちのアイデアから実現させるというところに繋げていければと思う。



学校名	浜田市立弥栄小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1～2 年	生活科	もっと秋をさがしにいこう	まちづくりセンタースタッフ、 地域の自然、野外散策
ねらい		・身近な地域に出かけ、秋の植物や生き物に興味・関心をもつ。 ・季節の変化を感じながら、地域の良さに気付く。 ・身近な地域の方との関わりを深める。	

1 取組の概要

- ①はじめの会（昇降口前） 「学習のめあて等確認」
- ②秋をさがしにいこう（地域・弥畝山周辺）
「まちづくりセンタースタッフ等に秋の植物・生物についての話を聞きながら散策をする」
- ③おわりの会（昇降口前） 「感想発表・おわりのあいさつ」
- ④ふりかえり用紙記入（教室） 「学級でのふりかえり、ふりかえり用紙の記入」

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養うための教育活動に取り組んだ。

（学力育成の視点から）

学校周辺の秋の植物・生物をまちづくりセンタースタッフの方に説明していただきながら一緒に散策をすることで、子どもたちが地域に対する愛情や誇りを育む貴重な機会となった。山で見つけた木の実や落ち葉を持ち帰り、図工の教材（材料）として作品作成に活かすことで、身近な動植物に対する興味関心をもつ有意義な学習となった。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

弥栄のひと・もの・ことに進んで関わり、そのよさに気づく体験をまちづくりセンターの方と共有することで、地域の人に対する親しみや感謝の気持ちをもった。また、地域の自然について、もっと知りたいという意欲をもった。

（学力育成の視点から）

この活動を通して、季節の変化や地域の良さに気付くことができた。こうした気付きを思考そして実践へと移行させていくような実践を積み重ねたい。1年生児童はこのような作文を書いた。（一部のみ以下）「やうね山であかいみをみつけました。あかいみの大きさは1センチです。」「まつぼっくりとどんぐりで、くるまのおもちやがつくれるとおもいました。」「まつぼっくりはあばかどみたいなかたちでした。」

4 課題や今後の展望

弥栄中学校校区の本校では、「信頼し合い、助け合い、思いやりの心をもった『弥栄』を愛する子」および「主体的に関わり、学んだことを自己表現できる子」を理想の子ども像として実践を重ねている。子どもにとって有意義で価値ある本事例のような実践をこれからも継続することを課題と考えている。



学校名	浜田市立三隅小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	生活科	春・夏・秋見つけ	井野まちづくりセンター・野山嶽 自然観察員
ねらい		地域の自然に親しみ、興味をもって進んで春や夏、秋の自然探しをする。	

1 取組の概要

1年生は毎年6月と11月の2回井野地区に出かけ、井野まちづくりセンターと自然観察員の方の案内で「春・夏見つけ」「秋見つけ」を行っている。6月は野山嶽まで行き、11月は棚田の周りや山からまちづくりセンターまでの道のりを歩きながら虫や草花の実などを見つけた。持ち帰ったものを使って生活や図工で作品作りを行った。

また、自然観察員の方に野山嶽の由来や植物や虫の名前と特徴を教えてもらったり、秋には葉っぱを使った擦り出しを教えてもらったりして、学校の周りとは違う豊かな自然の中で十分活動を楽しむことができた。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

今年は、例年の活動に加え、児童も地域の活動に参加し少しでも貢献したいという思いから、6月に野山嶽のひまわり畑に地域の方と一緒に種をまく活動を組み入れた。山頂の広い畑に一人が一畝ずつ種を蒔き、8月に満開になることを楽しみにした。地域の方に種の蒔き方を教えてもらったり、去年のひまわり畑の見事な写真を見せてもらったりしながら、井野地区の良さを感じることができた。保護者の方にも「野山嶽のひまわり畑」を知ってもらおうと、写真を掲示したり、センター作成の案内図を配付したりした。

(学力育成の視点から)

学校の周りでは十分に見つけられない虫や草花、木の実を実際に手に取ってみることができ、その場で自然観察員の方に詳しく説明を聞くことができることで、児童は目を輝かせて興味関心を示した。図鑑や画像で調べるのではなく、体を動かし五感を使って感じる活動にした。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

井野地区から通う児童は少なく、井野を知らない児童が多い中、自然豊かな井野を知ることができたことが一番良かった。2回の活動だけでなく人とたくさん関わった体験が「楽しかった」「また井野に行きたい」という思いにつながった。

(学力育成の視点から)

全員が全ての活動に意欲的に取り組み、昆虫や植物の知識は確実に増えた。また、地域の方と進んで関わり質問する姿や、友達と協力して活動する姿が多く見られた。



4 課題や今後の展望

ひまわり畑の種まきを地域の方と一緒にできたことはとても良い体験だった。児童数の減少が見られる井野地区だが、野山嶽や大麻山、棚田など教育資源が豊富な地域であることから、今後もその教育資源と地域の人材パワーを活用して、子ども達ができる活動を考えていきたい。

学校名	浜田市立岡見小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5・6	総合的な学習 の時間	岡見の歴史を調べよう	岡見まちづくりセンター 地域のボランティア
ねらい		岡見小の開校150年の機会に、昔の学校の様子を聞いたり、調べたりすることを通して、地域への愛着を深め、地域を大切にしようとする心情を深める。	

1 取組の概要

今年が、岡見小学校の開校150年にあたることから、広く地域にも呼びかけ、運動会の際記念撮影をした。その取り組みの中で、昔の小学校は、現在の場所とは違うところにあったことに児童が気づき、昔の学校の様子を調べるところから学習がスタートした。社会科の学習と関連付けながら、文献や写真資料にあたり、昔の学校の様子を調べた。また、地域のお年寄りを学校に招き、直接昔の学校生活の様子を話していただく機会も設けた。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

児童にとっては、当たり前のように存在する小学校であるが、その歴史をたどることで、地域から大切にされてきた小学校の歴史に触れることができ、岡見小学校に対する誇りや伝統を大切にしようとする気持ちを高めることができた。

(学力育成の視点から)

調べ学習を行う際、ネットを利用したり、図書館の資料を利用したりすることには慣れてきている児童が多いが、直接話を聞くことについては、経験が多くない。小学校の歴史については、ネットや図書資料という形でまとめられているわけではないので、身近な家族や地域の方への直接的なインタビューが重要になる。この点において、貴重な調べ学習の方法を経験できる機会になるものと思う。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

小学校の始まりが地域のお寺であったことに児童は驚いていた。

現在の校舎が水害の心配がない高台に建てられていることにも理由があることが分かった。

(学力育成の視点から)

児童は大変興味を持ち学習に取り組むことができた。それは、身近な題材ということと、開校150年という絶好のタイミングがあったからだろうと思う。慣れないインタビューも積極的に行い、また、祖父母等の家族からも取材している児童が多数いた。

4 課題や今後の展望

複式学級であるので、この取組を隔年に行うことでふるさと教育の学習課題として定着していける可能性のある題材であると思う。切り口を変えていくことで、学習成果が蓄積されていけるのではないかと考えている。

学校名	浜田市立第一中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	ジョブカフェ	・浜田一中校区地域コーディネーター ・地域の事業所の方々（10業種） ・ICT支援員
ねらい		職場体験学習に向けて、地元事業所の業務内容や地域とのかかわりについて知るとともに、仕事に対する思いや地域で働くことの意義などを直接聞くことで職業観や勤労観を高め、職場体験学習における自己の課題設定を行う一助とする。	

1 取組の概要

- (1) 事業所の方のお話（15分）
 - ・事業所（企業）の業務内容について
 - ・地域の中の事業所（企業）としての役割
 - ・地域の課題とそれに対しての取組
 - ・経営者あるいは従業員としてのやりがいや苦勞、思いなど。
- (2) 質疑応答（5分）

※生徒は、3つの事業所のブースを巡回しながらお話を聞く。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

職業で地域に貢献している大人の思いを直接聞くことで、その人のもっている思いや考えに触れ、自分の生き方の参考とできた。

（学力育成の視点から）

事前に調べ学習をし、それを踏まえ質問ができるようにした。課題解決のためにどのような質問すればよいか考え、回答をもとに自分でわかったことについてまとめる取組を計画した。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

ジョブカフェ後の生徒アンケートで「自分が働くことについて考えられた」の肯定的意見が94%であり、地域で働くという選択肢も考えることができた。

（学力育成の視点から）

ジョブカフェ後の生徒アンケートで「職場体験が楽しみになった」と肯定的意見が92%、「これから探究してみたいことが見つかった」で肯定的意見が86%、「これから探究してみたいことが見つかった」で肯定的意見が86%であり、職場体験に向けての学習意欲向上に役立った。

4 課題や今後の展望

- ・次年度ジョブカフェを実施するかどうかの決定をし、おおよその実施時期を決めて今年度中に事業所を決定しておくとい。
- ・事業所の数や職種のバランスを考えた依頼先も必要なので、地域コーディネーターとの相談が必要となってくる。



学校名	浜田市立第二中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習 の時間	「みんなが住みたい・来てみたい 街 浜田」を考えよう！	地域の方、市役所の方
ねらい		住みたくなる・来たくなる浜田への提案に生かすために、浜田の魅力と課題やその活動に取り組む人々や組織、地域の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々に取材する	

1 取組の概要

- ・元気な浜田をつくるためのまちづくりのお話を聞こう
- ・他県から来た人には浜田はどう見えてるの？
- ・浜田のどんなことについて、魅力（よさ）と課題を考えていくか、問いを考えよう
- ・自分が探究するテーマを決めよう
- ・誰にどんな話を聞きたいか、具体的に考えよう
- ・調べたことを踏まえて、質問を具体的に考えよう
- ・お話を聞いたり調べたりしたことをもとに、浜田の魅力を向上させるために今の自分たちにできることは何か考えよう



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

課題について自分たちで調べたり考えたりする中では難しさばかりを感じがちであるが、実際に地域の発展のために取り組んでおられる方々の思いを聞いたり、その現場を見て知ることによって、ふるさとを大切にしたい気持ちに共感したり、自分たちに何ができるか意欲的な気持ちになることを意図した。

（学力育成の視点から）

浜田について市役所の方や、他県から来た県立大学生のお話を聞いて、自分たちに身近な課題を考えることからスタートし、自分に関係のあることとして取り組みを進める中で、地域の課題と向き合い、解決に取り組んでおられる方々のお話を聞く流れとした。これにより、自らのこれからの生き方についての考えを深め、現在行っている中学校での学習の意義を見つめなおすことで、学習意欲の向上に結び付けることを意図した。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

地域の人と関わりつながっていくことを頑張りたい、地域の課題を解決するために自分ができることをしたいという感想が多くみられ、ふるさとへの愛着が高まり、地域への貢献意欲が高まったことがうかがえた。

（学力育成の視点から）

働くということが地域や社会の発展に貢献していくことを学び、現在の学校での学習が将来のキャリア形成につながるという内容の感想が多く、課題解決に向けての気持ちの高まりや学習意欲の向上につながったと考えられる。

4 課題や今後の展望

地域の課題を自分事として捉えられるような取り組みの工夫が必要である。

学校名	浜田市立第三中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習 の時間	ふるさと学習	まちづくりセンター 地域防災士 石西防災所研究所相談員
ねらい		防災教育を通してふるさと浜田に愛着を持って地域の方々と共に生きていこうとする気持ちを育む	

1 取組の概要

地域で起きた過去の災害について、現在の防災体制や施策などについて調べたり外部講師の話などを聞いたりして学んだことを発表する。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

まちづくりセンターや地域防災士をはじめ校区の方々とともに防災教育を共に学び、共に生きることの大切さを実感する。さらに将来的に地域防災の中心として活躍できる意識を持たせる。

(学力育成の視点から)

正しい防災、情報の大切さ、機転の利いた行動など災害時に備えた知識をしっかりと身に着けるとともに、普段からの予防や備えの大切さを理解し、実際に準備ができるようにする。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域の方々との触れ合いを通して地域の中で育てられている実感を持つとともに、地域で活躍できる人材になろうとする意識がついた。

(学力育成の視点から)

防災に対する正しい知識理解のため専門の指導講師を招き、予想外の災害にも対応できる体制を作るため、本年度は益田市から石西防災研究所の相談員の伊藤輝昭氏に講義とともに実習や体験学習を行い、専門的な学びができた。

4 課題や今後の展望

継続的な取り組みとともに、振り返りをしっかりとすることで、更なる効果的な学習体系や実習方法の改善が大切である。

学校名	浜田市立浜田東中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な学習 の時間	修学旅行	三浦龍司、和田毅、佐々木大樹、 浜田市HP 石見畳ヶ浦 など
ねらい		浜田の魅力を伝えるリーフレットづくりを通して、ふるさとの良さを再確認する。	

1 取組の概要

東京方面での修学旅行に際し、班で取り組む自主研修で企業を見学する際に、ふるさと浜田の良さや特徴を知ってもらうために、「浜田市のことを勝手にPRするパンフレット」（以下浜田パンフレット）を作成した。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・浜田市の紹介だけにとどまらず、浜田や石見地方の特産物や有名人、歴史や名所旧跡など、パンフレットに盛り込む内容を生徒の意見・考えから抽出する。
- ・先輩講話を通し、目標をもって取り組むことの素晴らしさや過程を学ぶ。

（学力育成の視点から）

- ・今までに浜田市についての学習を行っているので、その知識を活用し取り組む。また情報提供者に著作権の許可を取ることや自分たちでオリジナルのページに作成するなど、情報モラルや技術の向上などの面にも取り組む。
- ・班活動や先輩との交流活動を通じて、コミュニケーション力を身につける。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・「浜田パンフレット」ページ分担をとおして、地域について関心をもつ面が見られた。
- ・本校先輩に対する尊敬や感謝の気持ちが表れた。新聞に取り上げてもらったことで、ふるさと浜田から輩出された先輩への思いを高めることができたと考えた。

（学力育成の視点から）

- ・今まで詳しく知ることのなかった畳ヶ浦や石見神楽について調べることで、地域の現状や課題について理解した。
- ・「浜田パンフレット」作成をとおして、浜田市の現状や特産物、名所・旧跡など知ることができた。

4 課題や今後の展望

昨年度の「はまだ検定」をさらにステップアップし、この取組を行った。自分たちのふるさが誇るものを、初めて訪問する東京方面の企業にPRするというミッションは個々では難しいが、班で取り組むことで達成できたのではないかと考える。また、島根県が誇る、三浦龍司先輩との交流が、何らかの形で続くとよいと考える。

「浜田パンフレット」の一部

5 活動の様子、記録

先輩講話



学校名	浜田市立金城中学校		
学年	主な教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	伝統文化の継承	・ 甚左衛門太鼓保存会
ねらい		郷土芸能の継承、その表現活動をととして、郷土への愛着をもつことができるようにする。	

1 取組の概要

中学生が地域を元気にする実践のひとつとして実施。郷土芸能「甚左衛門太鼓」保存会に協力してもらい、太鼓の演奏方法や所作などを習得し、継承していこうとする取組。

総合的な学習の時間を使って、指導者の方に毎時間教わり、金城中学校学習発表会で演奏を披露した。この活動は10年以上続いている。また、今年度は、雲城小学校の4年生にも披露し、小中連携としての取組も行った。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・ 郷土芸能のよさにふれることで、ふるさとへの愛着と誇りをもつことができるようにする。
- ・ 保存会の方々との交流をととして、生徒の地域貢献意欲を高める。

(学力育成の視点から)

- ・ 異世代交流や甚左衛門太鼓の演奏をととして、コミュニケーション力や表現力を高める。

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・ 地域の方々の中学生に寄せる期待と感謝の意をくみ取り、地域活性化の担い手としての自覚をもった。

(学力育成の視点から)

- ・ 他者と協働して創造する力が高まった。
- ・ ボランティア活動を中心として、積極的に地域活動に協力するようになった。



4 課題や今後の展望

- ・ 地域側と事業前の計画・事業後の振り返りをする事。
- ・ 前例踏襲ではなく、目標達成のために効果的な学習計画の工夫、改善策作成をしてPDCAサイクルで連携事業の質を高めていくこと。



学校名	浜田市立旭中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習の時間	旭町の再発見ツアー 旭町を盛り上げる提案をしよう	各地域まちづくりセンター 地域の生産者 旭支所教育委員会旭分室
ねらい		自らが地域の課題を見いだすとともに、具体的な解決策について考え、提案し、地域を盛り上げ支えていこうとする地域貢献意欲を高める。	

1 取組の概要

各地域まちづくりセンターの協力のもとで旭町の歴史や文化、自然を体感できる「旭再発見ツアー」に参加した。

その中で、生徒はこれまで知らなかった旭町の良さを学ぶとともに、現状の課題も発見した。その後、テーマ（情報発信、居場所づくり、キャラクター考案、特産品スイーツ作り、グッズ制作）ごとに分かれ、旭町の良さを生かして地域を盛り上げようと、実際にスイーツを試作したり、グッズを考案したりと試行錯誤を重ねてさまざまな提案を考えた。

地域の方にもアドバイスをいただきながら計画を進め、総合的な学習の時間の公開授業で他学年の生徒や保護者、地域の方々へ新たな取り組みの提案をした。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

○旭の発展のために活動しておられる方々の取組、地域の魅力や課題について、旭町再発見ツアーを通して現状理解を深め、今後ふるさとを大切にしたい気持ちを養うとともに、地域のために自分に何ができるか考え、行動しようとする態度を育てる。

（学力育成の視点から）

○地域の方と話し合いながら取り組むことでコミュニケーション能力を向上させる。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

○地元で地域発展のために活動しておられる方々に直接お話を聞くことで、旭の現状やその人の思いを知ることができ、旭町のよさを再発見するとともに課題を見いだすことができた。そして、今後、自分たちにできることは何かを考えるきっかけとなった。また、地域の方々に支えられていることに気づき、地域への愛着や誇りをより強く持つようになったと思われる。

（学力育成の視点から）

○課題解決に向けて、他者と協力しながら工夫して取り組む力を高めるとともに、様々な方法を試しながら最善の方法を見つけていく過程で問題解決能力を高めることができた。
○課題について整理し、自分たちの思いや新たな取り組みの提案をパワーポイントでまとめ、他学年や保護者、地域の方々に発表することで情報発信能力を高めることができた。

4 課題や今後の展望

今年度の活動を通して、旭町のよさと課題を理解し、地域を盛り上げるための提案をすることができた。今後も探究のサイクルを回し、学びを深めていきたい。

学校名	浜田市立弥栄中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1年	総合的な学習 の時間	弥栄の未来を考える	杵束まちづくりセンター、安城まちづくりセンター、産業自治課、防災士、被災された方
ねらい		地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養う。 ・地域との交流を通して、故郷に愛着を持ち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えをもち、発信する力を育てる。	

1 取組の概要

生徒の考えをもとにテーマを設定し、現在の弥栄の取組と課題を知る。その中から、自分の課題を設定し、調べ学習をすすめ、今の弥栄町の防災についてまとめた。そのことから自分の意見を持ち発表する。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・ふるさとの過去の災害について学び、それをもとに小学校での活動と重ならないよう配慮し、中学校として地域との関わりを広げられるようなテーマを設定した。
- ・中学校の案をもとに、テーマに沿った人を地域の公民館にコーディネートしていただいた。また、活動全般にわたって参加していただき、連携して実施した。
- ・レポートやスライドにまとめ、弥栄の防災について考えたことを学習発表会で発表した。

(学力育成の視点から)

- ・防災への意識を高めるための講義・活動・体験を実施することで、防災について「わかる」ことを増やした。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・実際に被災地を見学し、被災の状況を聞くことで、災害を身近なものとしてとらえる感想が多く見られるようになった。
- ・「自然豊かな町を守りたい」「弥栄を大切にしていきたい」などの自分の考えを、調べてわかったこととともに、自信をもって発表することができた。

(学力育成の視点から)

- ・災害を調べる中で、他教科の知識を活用する場面があり、「つながる」力がついた。



58年水害でのがけ崩れの場所の見学

4 課題や今後の展望

- ・まちづくりセンター、外部講師との連携をとるための準備が必要

学校名	浜田市立三隅中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	ふるさと学習	松永牧場、県立大学、リハビリテーションカレッジ、石州和紙会館、吉原木工所、浜田市農林振興課、伝統工芸品産業振興協会
ねらい		○地元企業や職業についての理解を深め、ふるさとを愛する心を養う。 ○職業観や勤労観について、基礎的、基本的な知識を得る。	

1 取組の概要

- 職場体験学習
- 松永牧場訪問
- 県立大学訪問
- リハビリテーションカレッジ訪問
- 紙漉き体験
- 吉原木工所講話・体験



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

三隅町にある企業を中心に職場体験学習や企業訪問、体験活動を行った。知っているようで知らない三隅町の企業について実際に体験することにより、「ふるさと三隅」にこんなにも誇れる企業があるということを知ること。将来、社会に出て働くことを考えたとき、選択肢の中の一つに、地元の企業で働くことや、地域に貢献したいという意欲が養えることを目的として活用した。

(学力育成の視点から)

「講義」「体験」を取り入れ、専門的な知識を学び、将来の進路選択の幅を広げる。

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

さまざまな体験を通して、「ふるさと三隅」に対する思いが深まったように思う。また、「働くこと」とはどういうことなのかについて現実的にとらえ、人間としての今後の生き方についても考え、現在の自分自身を見つめるなどの良い変容が見られた。

(学力育成の視点から)

体験活動を多く行うことによって、準備や事後学習など、見通しをもって活動を行う力が身についた。

4 課題や今後の展望

課題は、日程調整。3年生という様々な行事がある中のどこに組み入れるのか、また、それに伴う準備など煩雑であること。しかし、生徒にとってふるさと教育だけではなく、キャリア教育の視点からも学ぶことが多くあるので続けていきたい。

